

タゲリ（チドリ科） 全長32センチ

県内には旅鳥として初冬と早春に飛来するが、観察されるのは少ない方です。

2月18日、市内の田んぼは殆ど雪が消えてしまい、大浦沼周辺で4羽のタゲリが見つかった。頭上にせり上がった冠羽が目につきます。後頸から背中にかけて、体の上面は緑色や淡い紫色や赤紫色の金属光沢が特徴的です。

この田んぼは秋の収穫後にトラクターで耕され、低い所には水溜りがありタゲリにとって餌となるミミズなどが得やすいのでしょう。



後頭の長い冠羽が特徴的。

盛んに歩き回りながら、クチバシを土の中に刺し込み何かを啄んでいる。素早い動作で、餌の種類までは確認されません。

例年だと3月下旬ころ飛来しているのですが、暖冬で早めに移動したのでしょうか。採餌行動が落ち着いてきたら、1羽のタゲリが水溜りに入るとバシャバシャと水浴びを始めた。



寒くても大事な水浴びは欠かせません。



やっと終わりました。

まだ寒いのに水の中に入らなくともいいのにとわれるが、彼らにとっては大事な行動なのでしょう。入念に続けた水浴びが終わると、隣のタゲリも始めたではないか。お腹を満たし体力をつけ綺麗になったタゲリは、再び繁殖地を目指して旅立って行くことでしょう。



柔らかい土が餌探しに丁度よい。



羽の色は光の反射により変化します。